

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4271200547
法人名	社会福祉法人 もみの木会
事業所名	グループホーム もみの木の家
訪問調査日	平成 19 年 12 月 20 日
評価確定日	平成 20 年 1 月 25 日
評価機関名	社会福祉法人 長崎県社会福祉協議会

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4271200547
法人名	社会福祉法人 もみの木会
事業所名	グループホーム もみの木の家
所在地 (電話番号)	長崎県東彼杵郡東彼杵町里郷1804-1 (電話) 0957-49-3852

評価機関名	社会福祉法人 長崎県社会福祉協議会		
所在地	長崎県長崎市茂里町3番24号		
訪問調査日	平成19年12月20日	評価確定日	平成20年1月24日

【情報提供票より】(平成19年10月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 10 月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	15 人
職員数	15 人	常勤 11 人, 非常勤 4 人, 常勤換算	13.7 人

(2) 建物概要

建物形態	併設 単独	新築 改築
建物構造	木造平屋 造り 1 階建ての 1 階部分	

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	15,000 円	その他の経費(月額)	— 円
敷 金	有(円)	(無)	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり	1,000 円	

(4) 利用者の概要(平成19年10月 1日現在)

利用者人数	14 名	男性 0 名	女性 14 名
要介護1	2 名	要介護2	5 名
要介護3	4 名	要介護4	1 名
要介護5	0 名	要支援2	2 名
年齢	平均 85 歳	最低 76 歳	最高 95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	岩永医院、鈴木病院、村岡歯科医院
---------	------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

国道沿いとは思えないほど静かな環境に位置し、地域密着型サービス事業所として、運営推進会議の開催、地域の行事や活動への参加、地元の子どもをはじめとする住民とのふれあいを重視した取り組みを行っている。
「笑顔あげます」をテーマに、「入居者と地域のみなさんに明るく笑顔で」という理念を掲げ、職員は、利用者一人ひとりのこれまでの生活歴や力を活かし、楽しみながら役割を持ってもらえるように、利用者が職員にコツなどを教え、職員が利用者をつりあげなくサポートしながら、一緒に料理を作ったり、買い物に出かけたり、野菜作りをしたりしており、ともに支えあう関係づくりに努めている。
管理者と職員は一丸となり、心のこもったサービスと地域に根ざしたサービスの質の向上に向けて日々努力し、個性を活かした家庭的な雰囲気の漂ったグループホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目 ①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の外部評価の結果をもとに、ミーティングで事例をあげながら改善策について検討し、具体的な勉強会を行うなど改善に向けた取り組みを実践している。
重点項目 ②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	評価を前向きに捉え、自己評価には職員全員で取り組み、ミーティングなどで課題等について検討している。
重点項目 ③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議要領により、会議は3ヶ月に1回開催することとしており、第1回目を平成19年10月24日に開催し、利用者やサービスの現状、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行っている。出席者の意見や提案事項については、ミーティングや勉強会等において十分に検討を加えながら、サービスの向上に活かすよう取り組んでいる。
重点項目 ④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族への手紙や家族がホームを訪問した際に、職員から常に親しみをもって話しかけ、何でも気軽に話してもらえるような雰囲気づくりに努めており、家族からの意見や要望等については、申し送りやミーティングで話し合い、日々のケアに反映する仕組みが整っている。
重点項目 ⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域の自治会に加入し、お茶まつりや秋祭り等の地域の行事には利用者と共に参加している。また、老人会の有志が行なっている子どもパトロールにも職員が交替で参加するなど、地元とのふれあいを重視した交流に努めており、法人の設立理念である「地域と共に、地域の一員として」の基本姿勢が職員一人ひとりに浸透している様子が窺える。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「笑顔あげます」をテーマに、常に地域を見据え、地域に根ざして、温かい雰囲気の中で利用者が明るく笑顔で安全に、ゆとりをもって暮らし続けられるように、独自の基本理念と職場理念をつくりあげ、地域密着型サービスの向上に日々努力している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	「笑顔あげます」というテーマを念頭に、独自のわかりやすい基本理念と職場理念を掲げ、日々のケア実践の中でいつでもどこでも活かせるよう、ミーティングや申し送りなど、機会あるごとに理念に触れ、確認し合い、理念の具体化や共有に努め職員の意識向上を図っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地元の自治会に加入し、お茶まつりや秋祭り等の地域の行事には利用者と共に参加している。また、老人会の有志が行なっている子どもパトロールにも職員が交替で参加するなど、地元とのふれあいを重視した交流に努めており、法人の設立理念である「地域と共に、地域の一員として」の基本姿勢が職員一人ひとりに浸透している様子が窺える。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者や職員は評価の意義を十分に理解し、評価を前向きに捉えている。自己評価には職員全員で取り組み、日々のミーティングや勉強会で、さらなるサービスの質の向上をめざした具体的な検討を行っている。また、外部評価の結果から改善に向けた取り組みを行っている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議要領により、3ヶ月に1回開催することとしており、平成19年10月24日に第1回目を開催し、利用者やサービスの現状、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行っている。出席者の意見や提案事項については、ミーティングや勉強会等において十分に検討を加えながら、サービスの向上に活かすよう取り組んでいる。	○	出席者には、この会議を通してグループホームの誕生した背景や特徴、役割等を理解してもらい、グループホームの理解者として、広く住民への啓蒙活動に協力してもらい、サービス向上を具体化していくモニターとして運営推進会議のさらなる発展を期待したい。

長崎県 グループホームもみの木の家

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	行政の窓口には手続きや問い合わせ等で時々訪問しており、事業所の実情やケアサービスの取り組み等、地域密着型サービスの向上に向けた連携も積極的に行なっておられる。		町の担当者にグループホームの真の理解者となってもらうためにも、町職員の研修場所として事業所を活用してもらい、利用者や職員との交流を図ることなどの検討を加えられると効果的ではないだろうか。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月1回、担当職員による手書きの便りや写真を送付して、利用者それぞれの暮らしぶりを家族に報告している。また、家族が来訪した際には、写真や生活記録、金銭出納帳なども見てもらい、その都度、家族からの確認印やサインをいただいております。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員は、家族に手紙や訪問の際に常に親しみをもって話しかけ、何でも気軽に話してもらえるような雰囲気づくりに努めており、家族からの意見や要望等については、申し送りやミーティングで話し合い、日々のケアに反映する仕組みが整っている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者や家族との信頼関係を築くため、担当職員を決め、馴染みの職員によるケアに心がけている。やむを得ない職員の異動や退職等がある場合には、利用者や家族に不安や不満を抱かせないよう、きちんとした説明を行なうとともに、一定期間退職や異動する職員と新任職員を一緒に勤務させながら引継ぎを行なうなど最善の努力を行っている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部の研修も、なるべく多くの職員が受講できるよう勤務調整や研修費の負担などへの配慮があり、研修に参加した後は、研修報告書を管理者に提出するとともに、定例の勉強会で報告する仕組みとなっている。また、研修報告書は全職員が閲覧し研修内容を共有できるようにしている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	町内に連絡協議会があり、他事業所との意見交換や情報共有など、交流を図っている。また、近隣の市町のグループホーム連絡協議会等から研修への誘いがあつた時には積極的に参加するなど、地域の同業者と交流する機会を通じて、ケアサービスの質の向上に繋げていこうという意欲が感じられる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	やむを得ず急にサービスを利用するようになった場合には、家族と相談しながらこれまでの生活の中で関わりのある人にもホームに来てもらったり、状況に応じて一緒に宿泊してもらったりを繰り返しながら、本人がホームの生活に安心感を持って馴染めるように努めている。また、自宅で使用していた馴染みの家具などを置き、自宅との違和感をなくす雰囲気づくりにも配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	「利用者は人生の先輩である」という考えを、職員一人ひとりが認識して利用者のケアに当たっている。また、声かけや場面づくりに配慮しており、普段から利用者に調理の技や工夫を教えてもらうことが多く、利用者の思いや喜びを共有するとともに、共に支え合う関係づくりに努めながら支援を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は日々の関わりの中で、利用者一人ひとりの思いや暮らし方の把握に努めており、意思疎通が困難な利用者については、家族から情報を得たり、本人に寄り添いながら思いや意向をそれとなく確認したりしている。また、本人にとって、どこで、誰と、どのように暮らすことが最良なのか家族も交えて検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者が自分らしく暮らせるよう、職員全員でアセスメントなどについての意見交換やカンファレンスを行いながら、より具体的な介護計画の作成に取り組んでいる。また、利用者や家族からも、日頃の関わりの中で思いや意見を聞き、介護計画に反映させるよう努めている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的な見直しはもちろん、状態変化や家族、利用者の要望等に応じた見直しも随時行い、記録もきちんと残されている。介護計画に基づいて行っている利用者の支援の中で職員が気づいたことや意見は、申し送りノートに記録し随時検討している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者や家族の状況や希望に応じて、通院やリハビリへの同行、お寺参りなど、柔軟な支援に努めている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用契約の際に、家族と話し合いのうえ受診する医療機関を設定している。また、利用者の主治医、家族、ホームの協力医療機関等と協議し、利用者が適切な医療を受けられるよう支援体制を整えている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居の際に、利用者及び家族等の希望を聞きながら、納得いくよう話し合いを行っており、できるだけ早い段階から、利用者や家族、かかりつけ医、協力医療機関等と繰り返し話し合いを行い、重度化や終末期の支援方針を決定、共有するよう体制を整えている。	○	グループホームにおける大きな課題の一つと捉え、利用者の重度化や終末期の対応についてさらなる充実を期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシーの確保の徹底について、勉強会やミーティングなどで職員の意識向上を図るとともに、尊敬の念を持ち、利用者一人ひとりに合わせた言葉遣いやプライドを傷つけない配慮を心がけている。また、個人情報保護の徹底にも取り組んでいる。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れは決めているが、時間を区切った過ごし方はせず、利用者の体調に配慮しながら、その日、その時の利用者それぞれの気持ちを尊重して、一人ひとりのペースに合わせた支援を行っており、起床や食事の時間も柔軟に対応している。		

長崎県 グループホームもみの木の家

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員は、一緒に料理の本などを参考に利用者の好みを取り入れながら献立を作り、食材選びから、買出し、調理、盛り付けにいたるまで利用者とともに行き、利用者と職員と一緒にテーブルを囲み、食べこぼしのサポートもさりげなく行き、楽しく食事できるように支援している。また、外食、出前なども活用し、食の楽しみを支援している。		料理を作る、食べるで終わることなく、料理をデジタルカメラ等で撮影し、生活の記録として残したり、レシピの一つとしてファイルしたりするなど、工夫や検討を加えられるとさらに効果的ではないだろうか。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日は週に3回設定しており、時間帯も午前10時から11時、午後は2時から4時までと決められているが、利用者の希望に合わせて、利用者が入浴したい時に、いつでも入浴を自由に楽しめるよう支援している。また、利用者の体調に合わせて足浴などの支援も行っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	職員主導ではなく、利用者一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごとが持てるように、利用者と一緒に話し合いながら外出や買い物、ドライブなど気晴らしの支援を行ったり、花や野菜づくりなど経験や知識を発揮できる場面づくりをしたりしている。訪問調査当日は、雑巾づくり、洗濯物たたみ、ぬりえなどを行っていた。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	できるだけ外気に触れて肌や目で季節を感じてもらい、心身の活性につながるように、天候や利用者の気分、希望に合わせて、日常的に散歩、買い物やドライブ等の外出支援を行っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関に鍵をかけず、職員は、利用者一人ひとりのその日の気分や状態をきめ細かく把握するよう見守りを徹底し、外出しそうな気配を察知したら、止めるのではなく、さりげなく声をかけて一緒に外出するなど、安全面にも配慮して、自由な生活の支援を行っている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルを作成し、運営推進会議の委員である消防団長の指導のもと、年2回避難訓練を実施しており、避難誘導口、消火器の点検、消火器の使い方等の訓練も定期的に行い、避難所についても全職員に周知している。また、隣組の一員として、自治会、老人会なども日頃から積極的にかかわりを持つよう取り組むなど、地域の人々との連携協力に努めているほか、隣接する同法人の老人福祉施設との24時間の協力体制もできている。		

長崎県 グループホームもみの木の家

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分などの摂取状況はチェック表に一日を通して記録し、全職員が情報を共有しており、おおまかに栄養摂取量も把握している。また、法人内の管理栄養士に、月1回献立を見てもらいアドバイスを受けている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間の装飾、居間や食堂の家具の配置等は、利用者と一緒に考えて、利用者に自分の住んでいる家だという意識を高めてもらえるような工夫をしている。また、居間にはソファや椅子などを置いて、居場所の確保にも十分な配慮があり、利用者と職員の手づくりのカレンダーをかけ、季節の花を各所に活けるなど、ごく自然に季節感を漂わせる配慮をしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、馴染みのタンスや写真など使い慣れた日用品を自宅から持ち込んでもらい、本人や家族の意向を確認しながら、利用者の好み、習慣に配慮して家具の配置を考えているほか、観葉植物や季節の花を飾るなど居心地のよい居室づくりに取り組んでいる。また、利用者に合わせて温湿度調整や室内の換気も十分に行い、快適な環境であった。		